

植生史研究関連文献リスト1990年

- Crawford, G. W. & Takamiya, H. 1990. The origins and implications of late prehistoric plant husbandry in northern Japan. *Antiquity*, 64:889-911.
- 北海道および東北の縄文時代末以降の栽培植物の総説。文化期を縄文末、続縄文、エゾ（エゾ土師と縹紋に小区分される）、アイヌに大別し、エゾ期以降に農耕は本格化するが、それ以前にも栽培が存在するとしている。
- Fuji, N. 1990. Climatic changes based on palynological evidences from Lake Biwa, central Japan since the Middle Pleistocene. *Bulltin of the Faculty of Education, Kanazawa University, Natural Sciences*, No.39:17-30.
- 琵琶湖の200mと1400mコアの花粉分析にもとづく古気候変動曲線を海洋底で得られた酸素安定同位体比にもとづく曲線、その他の環境変動曲線と比較検討した。
- 藤井昭二。1990。魚津埋没林の掘削（1989年度）で得られた層序。魚津市立博物館紀要, No.2:79-81。
- 藤井昭二。1990。魚津埋没林の成因について。魚津市立博物館紀要, No.2:82-83。
- これまでの結果を簡潔に紹介し、埋没林は海水準低下時に生成されたと考えた。
- 藤井昭二。1990。日本海沿岸の更新世以降の古環境の変遷。第四紀研究, 29(3):173-182。
- 入善沖海底林について簡単に触れている。
- 藤原宏志。1990。昭和60年度調査の分析結果。「下川津遺跡-第2分冊-(瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告VII)」, 436-442。香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団。
- 藤原宏志・松田隆二・杉山真二。1990。青森:垂柳遺跡における水田域の推定とその変遷に関する実証的考察。考古学と自然科学, 22:29-41。
- ボーリング・ステッキによって採取した試料のプラント・オパール定量分析法により、弥生時代中期の地層ならびにその上位層を水田層と認定し、かつその分布域を推定した。
- 藤原宏志・甲斐玉浩明・宇田津徹朗。1990。プラント・オパール分析（形状解析法）によるイネ系統の歴史の変遷に関する研究。考古学雑誌, 75(3):349-358, 384。
- イネ機動細胞珪酸体の形状の種内変異すなわち亜種や品種などの系統間の形状差について検討し、乖離計数を栽培イネの亜種判別の指標として利用できる可能性を示すとともに、平安時代と現在のイネの品種群の傾向に違いのあることを確認する。
- 古市光信。1990。普通寺市永井遺跡花粉分析結果報告。「永井遺跡（四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊）」, 803-813。香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団。
- 21試料の花粉分析。考古層位に基づく。柱状図はなく、計数結果のみ提示。
- 古市光信。1990。普通寺市永井遺跡（縄文時代）産出の植物遺体（種子）について。「永井遺跡（四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊）」, 814-822。香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団。
- 33層位から出土した大型植物化石の報告。イチイガシやアカガシ亜属・ムクノキ・センダンが多産。標本の写真あり。
- 雁沢好博・萩原法子・工藤伸也・藤川寿徳・松山 勉。1990。更新世後期「銭亀沢火砕流堆積物」の層位と花粉分析。「春日井 昭教授退官記念論文集」, 69-76。
- 函館市東方に分布する銭亀沢火砕流堆積物の上位に重なる泥炭層の花粉分析結果。トウヒ属・モミ属で特徴づけられる花粉帯 Ko-1 とトウヒ属・マツ属・カラマツ属の多い Ko-2 を設定し、寒冷な気候を示唆した。

萩原法子. 1990. 黒松内低地帯における更新世中期の古環境. 「春日井 昭教授退官記念論文集」, 87-92.

蕨岱層の花粉分析の結果, 年平均気温で10度の低下が推定された.

長谷義隆・岩内明子. 1990. 熊本市およびその周辺の更新世末～完新世の植生変遷. 「熊本平野における完新世の古環境変化に関する研究, 平成元年度特定研究成果報告書, 代表者田村実(熊本大学教育学部)」, 55-70.

熊本市中島町, 飽託郡飽田町と阿蘇郡阿蘇町内牧における最終氷期以降の堆積物の花粉分析結果. また, 大分市府内橋付近の縄文海進貝層直上の大型植物化石群にはイチイガシが多く, タブノキ, ホソバタバの産出を報告.

平野 修・外山秀一. 1990. 弥生前期の水田址—山梨県韮崎市宮ノ前遺跡—. 帝京大学山梨文化財研究所報, No.10:2-3.

事前調査によるプラント・オパール定量分析から水田層を認定し, この結果にもとづいて埋没旧河道より弥生時代前期の水田址を発掘. また, 水田層直下と上面から出土した土器の胎土分析でイネを検出する. 水田層ならびに同層準の地層の放射性炭素年代値は, $2670 \pm 80y.B.P.$ と $2190 \pm 80y.B.P.$

星野フサ. 1990. 花粉化石は何個数えればよいか?. 「春日井 昭教授退官記念論文集」, 93-96.

星野フサ・萩原法子・神谷美由紀・曾禰多佳子・土屋裕志・小原正寿・松代理佳・柳沢真弥子. 1990. 中期更新世以降の古環境変遷—特に黒松内低地帯について. 「春日井 昭教授退官記念論文集」, 77-86.

中～後期更新世の蕨岱層, 知久川層の花粉分析の結果, 当時はエゾマツ・アカエゾマツを主要種とする亜寒帯針葉樹林に被われていた.

兵庫県植生誌研究会(編). 1990. 兵庫県植生史関連文献一覧. 71pp.

1990年までに兵庫県内において調査研究された最終間氷期以降の植生史に関する文献リスト. 対象は花粉・大型遺体・木材・植物珪酸体の各化石である.

五十嵐八枝子. 1990. 花粉化石から探る森林の歴史—北海道の3万年間—. 日本林学会北海道支部論文集, No.38:1-9.

北海道における過去3万年間を北海道各地の花粉化石群の変化をもとに9花粉帯に区分した. 約32000年前, および Larix-Pinus帯(約12000～25000年前), Betula-Juglans帯(約8000～10000年前), 約6000年前における花粉組成の平面分布図を提示する.

五十嵐八枝子・宮田雄一郎・野井英明・山田 治. 1990. 北海道根釧台地東縁部から得られた最終氷期の花粉化石群. 第四紀研究, 29(2):131-139.

32000～36000年前の地層で4花粉帯を設定した. 花粉組成はいずれも亜寒帯針葉樹林植生を示している.

五十嵐八枝子・柳井清治. 1990. 北海道北部宗谷丘陵にみられる完新世の化石ガリー. 第四紀研究, 28(5):413-417.

化石ガリーを埋積する約6000年前以降の泥炭層の花粉分析を行う. 花粉化石群は湿原性のものに特徴がある.

伊東隆夫. 1990. 鬼神谷窯跡出土炭化材の樹種. 「鬼神谷窯跡発掘調査報告」, 45-46. 兵庫県城崎郡竹野町教育委員会.

窯跡(5世紀末～6世紀初・7世紀中)から出土した炭化材の樹種同定.

伊東隆夫. 1990. 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途II. 木材研究・資料(京都大学木材研究所), No.26:91-189.

叶内敦子. 1990. 群馬県小川島と山梨県鶴島における阿蘇4火山灰を挟む泥炭層の花粉分析. 駿台史学, No.79:25-34.

2カ所の泥炭層の花粉分析の結果から最終氷期前半の古植生を復元. 樹木花粉はトウヒ属が優占しハンノキ属も多い.

金原正明. 1990. 右京十条四坊の調査(第60-3次). 「飛鳥・藤原宮発掘調査概報20」(奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部編), 50-54.

弥生時代後期の水田遺構堆積物を含む断面の花粉分析と種子類の産出報告.

金原正明. 1990. 花粉分析からみた奈良盆地の近世近代の植生, 栽培, 景観. 天理参考館報, No.3:54-60.

水田作土を主とする表層堆積物と近世の遺跡の濠・溝内堆積物の花粉分析結果をもとに, 奈良盆地では, 近世は山林がマツ林で占められ, 近代になってスギ林が多くなることを示した.

Kashiwaya, K. & Okimura, T. 1990. Reconstruction of past erosional force from tree ring information around the Rokko Mountains, Japan. Quaternary Research, 34:240-248.

六甲山系における年輪調査の結果, 25年から30年周期性が認められた. これらの年輪幅の変異はその地域の降水による削剥力の推定に利用できるとした.

清永丈太. 1990. 柏尾川沿い沖積低地より得た沖積層ボーリングコア試料の花粉分析. 関東平野, No.3:33-38.

関東平野南部横浜市栄区金井町よりえられた完新世ボーリングコアからの7試料の花粉分析.

清永丈太. 1990. 横浜市南西部, 柏尾川低地で得られた完新世堆積物の花粉分析. 第四紀研究, 29(4):351-360.

関東平野南部柏尾川流域の大船付近で採取された約5500年前以降の堆積物の花粉分析から, 植生変遷を議論する. コナラ亜属が減少しアカガシ亜属が増加する時期は4700年前と2800年前の2段階あり, クリが4700年前から3300年前まで主要な構成要素のひとつとなる. スギは2600年前から1000年前に優勢であった. 1000年前以降はマツ属が多い. マテバシ属-シイ属とクリ属を単体標本から同定する試みを含む.

小崎 尚・杉原重夫・叶内敦子(編). 1990. 東日本における最終氷期以降の古環境に関する文献. 「先史モンゴロイド集団の拡散地域の古環境データベース-文献情報資料集(1)」, 81pp.

神戸市教育委員会. 1990. 第1遺構面. 「郡家遺跡, 神戸市東灘区所在御影中町地区第3次調査概報」, 19-30. 神戸市教育委員会.

古墳時代中期水田跡の植物遺体が南木睦彦氏によって同定された. 栽培植物は少なく水田雑草・畑雑草がめだつて多い.

古環境研究所. 1990. プラント・オパール分析. 「郡家遺跡, 神戸市東灘区所在御影中町地区第3次調査概報」, 53-58. 神戸市教育委員会.

古墳時代中期とされる水田遺構が検出された層準から多量のイネのプラント・オパールが検出され生産量と稲作の営まれた期間が推定された.

古環境研究所. 1990. プラント・オパール分析結果報告. 「松井田工業団地遺跡」, 265-258. 松井田町教育委員会・群馬企業局.

浅間B軽石層の直下から畦畔が広範囲に検出され, その検証を目的としてプラント・オパール分析をした結果, 平安時代の水田稲作に伴うものであることを分析的に裏付ける. また, 軽石層の堆積後現在までの継続的な水田稲作を推定する.

古環境研究所. 1990. 元総社明神遺跡におけるプラント・オパール分析. 「元総社明神遺跡VIII」, 37-42. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団.

Hr-FA(榛名二ツ岳火山灰)層からAs-C(浅間C軽石)層の下位層準までを対象として, プラント・オパール分析を実施. 結果は発掘調査の成果にほぼ対応するが, As-C直下層では試料採取地点によりイネの検出に違いがみられる.

古環境研究所. 1990. 西国分II遺跡におけるプラント・オパール分析. 「西国分II遺跡(群馬町埋蔵文化財調査報告第28集)」, 109-112. 群馬町教育委員会.

FA(二ツ岳火山灰)層の直下から検出された畝状遺構を対象として, プラント・オパール分析を実施した結果, イネとキビ族が検出され, 後者については栽培種に関係する可能性を示唆する.

古環境研究所。1990。仙台市郡山遺跡（第84次調査）におけるプラント・オパール分析。「郡山遺跡（仙台市文化財調査報告第145集）」、107-111。仙台市教育委員会。

7～8世紀初頭の畠跡とされる小溝上遺構群のイネ科栽培植物の検討を行い、イネの栽培されていた可能性を示唆する。

古環境研究所。1990。中野市、風巻遺跡におけるプラント・オパール分析。桜沢遺跡におけるプラント・オパール分析。「風巻・桜沢（中野市埋蔵文化財緊急発掘調査報告）」、19-26,27-33。長野県中野市教育委員会。

5～10cm間隔で採取した試料のプラント・オパール分析を実施し、ほぼ全試料からイネを検出し、各層を水田層と認定する。

古環境研究所。1990。門田条里制跡におけるプラント・オパール分析。「門田条里制跡発掘調査報告書」、94-100。会津若松建設事務所・会津若松市教育委員会。

単位面積で層厚1cmあたりの植物珪酸体の生産量を算出し、その密度の多少により水田層の可能性の有無を判断する。

黒田啓介。1990。静岡県庵原郡富士川町から産出する植物遺体。名古屋地学、No.52:5-9。

中部更新統の鷲の田礫層下部ないし最下部の葉を中心とする大型植物化石群。Fagus nathorsti Konno, フジが多く、マツ属、アカシデ、ウラジロガシ、ブナ、Trapa cf. macropodaなど、20種を記録した。

黒田啓介。1990。静岡県袋井・掛川両市から産出する鮮新世以降の植物遺体。名古屋地学、No.53:1-11。

前田保夫。1990。花粉分析から推定した七日市遺跡設営前の森林植生。「七日市遺跡（I）（旧石器時代遺跡の調査）（近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書XII-I、兵庫県文化財調査報告書第72-I冊）」、209-214。兵庫県教育委員会。

約5万年前から遺跡設営直前までの森林植生を復元した。3～2.5万年前には温帯性落葉広葉樹が優勢となる。2.5～2万年前は再び針葉樹の優勢な針広混交林へと変化する。

松下まり子。1990。伊豆半島松崎低地の後氷期における植生変遷史。日生態会誌、40:1-5。

花粉化石群集帯の変化から、モミ属が主体の針葉樹林期とシノキ属が主体の照葉樹林期の2つの森林期を設定した。2つの森林期をとおしてスギ林が繁栄した。シイ林は8700年前頃成立し、モチノキ属・シキミ属・ユズリハ属などの照葉樹林種を随伴する。

松谷暁子。1990。藤井サンジョガリ遺跡出土炭化物について。「石川県埋蔵文化財保存協会年報1」、71-78。石川県埋蔵文化財センター。

弥生時代の遺跡から産出した径2.5cm程の炭化物塊を実体顕微鏡とSEMで観察し、アブラナ属の種子の塊であることを明らかにした。

松谷暁子。1990。蛭田遺跡から出土した植物遺残について。「蛭田遺跡（自然科学編）（静岡県埋蔵文化財調査報告23）」、IV1-4、図版IV1-3。中部電力株式会社・静岡市教育委員会。

縄文時代後期の遺跡からイチイガシの果実が多量に産出し、オニグルミとクリを伴った。木材の小片はサワラ、スギ、カヤ、キハダ？、オニグルミと同定された。

松谷暁子。1990。仙台市郡山遺跡（第84次調査）の灰像。「郡山遺跡第84次・第85次発掘調査報告書（仙台市文化財調査報告第145集）」、101-106。仙台市教育委員会。

古墳時代の住居址のかまどから産出した灰の塊の灰像はヨシが多く、イネも産出した。

南木睦彦・粉川昭平。1990。伊木力遺跡の大型植物化石群集。「伊木力遺跡」（同志社大学考古学研究室編）、642-659、図版118-121。多良見町教育委員会。

縄文時代前期からシイ、コナラ属アカガシ亜属の数種、クスノキや多様な常緑、落葉の広葉樹が産出した。チャンチンモドキやわが国最古のモモも産出した。

守田益宗。1990。栗木ヶ原湿原の花分析。「南八幡平地域湿原調査事業、栗木ヶ原湿原学術調査報告書」、23-43。岩手県。

植生は高山帯（～8500年前）・偽高山帯（8500～6500年前）・冷温帯ブナ林（6500～2500年前）の順に変

化し、以後、スギの増加(2500~1000年前)、アオモリトドマツの増加(1000年前~現在)があったことを示した。

守田益宗. 1990. ヒメヤシャブシとミヤマハンノキの花粉形態学上の差異—花粉分析への応用へ向けて—. 日本花粉学会会誌, 36:127-135.

ヒメヤシャブシとミヤマハンノキの花粉で微小突起の密度に差を認めた。その形質上の違いを、東北地方山岳の表層堆積物中のハンノキ属花粉に適用したところ、両花粉型の出現率の違いは、現在の森林植生の構成要素の分布とおおむね一致した。

中山誠二・外山秀一. 1990. プラント・オパールから中部日本の稲作の起源をさぐる. 帝京大学山梨文化財研究所報, No.10:4-5.

中部日本の縄文時代晩期から弥生時代中期初頭の土器のプラント・オパール胎土分析から、当地域の稲作の開始と波及を究明できる可能性を示唆した。

楡井 尊・渡辺真人. 1990. 静岡県中部, 第四紀更新世中~後期古谷泥層の花粉化石群集. 平岡環境科学研究所報告, 3:65-74.

ハンノキ属・マツ属・モミ属・ツガ属の多いやや冷涼な気候から、サルスベリ属が著しく多くコナラ属やニレ属-ケヤキ属近似種の多い温暖な気候へと変化し、その後次第に減暖化が段階的に進行したことを示した。

野井英明・佐藤喜男・畑中健一. 1990. 宮崎市浮田地域における沖積層の花粉分析と古環境変遷. 北九州大学文学部紀要(B系列), 22: 73-80.

約7000年前以降の古植生・古地理・海水準変化を論じる。

能城修一・鈴木三男. 1990. 伊木力遺跡の木材化石群集. 「伊木力遺跡」(同志社大学考古学研究室編), 660-669, 図版122-132. 多良見町教育委員会.

縄文海進期の自然木176点の樹種同定. 縄文前期のVII層から出土した102点にはマキ属やマツ属複雑維管束亜属・シイ・アカガシ亜属などが多く含まれる。

能城修一・鈴木三男. 1990. 昭和63年度調査の分析委託結果. 「下川津遺跡—第2分冊—(瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告VII)」, 533-567. 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団.

香川県坂出市の下川津遺跡から出土した木製品867点の樹種同定. 古墳時代から古代の610点中ではヒノキが半数を占め、そのうちの半数は齋串や人形などの祭祀具で、他に容器や棒・板材でも多用されている。

能城修一・鈴木三男. 1990. 善通寺市永井遺跡の木材化石群集. 「永井遺跡(四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊)」, 823-864. 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団.

香川県善通寺市永井遺跡から出土した縄文時代後期の自然木485点と後・晩期の木製品42点の樹種同定. 自然木ではアカガシ亜属とムクノキが合わせて25%ほどを占めるものの、多様な樹種が見いだされている。

能城修一・鈴木三男. 1990. 福井県鳥浜貝塚から出土した自然木の樹種と森林植生の復元. 金沢大学日本海域研究所報告, No.22:63-152.

鳥浜貝塚出土の縄文時代草創期および前期の自然木3232点の樹種同定. 草創期ではトネリコ属にニレ属やコナラ節・イヌガヤを交え、前期ではスギやヤブツバキ・トネリコ属などが多い。

小椋純一. 1990. 「華洛一覽図」の考察を中心にみた文化年間における京都周辺山地の植生景観. 造園雑誌, Vol.53, No.5:37-42.

絵画資料をもとにして、文化年間初期の京都周辺山地の植生を考察する。低い植生あるいはまったく植生のないようなところも広く見られた。森林は嵐山や東山中央部などの社寺有地を中心に分布していたが、高木からなる大面積の林は稀だった。

小椋純一. 1990. 室町後期における京都近郊山地の植生景観—初期の代表的洛中洛外図の考察を中心にし

てー。京都精華大学紀要木野評論, No.21:109-125.

絵画資料による植生景観の考察。江戸時代と同様に、室町後期の京都には高木の林は少なく柴や草の植生の部分が広く見られた。

大森博雄・柳町 治。1990。東北地方山岳地域における主要樹種垂直分布の上限、下限の温度領域と古気温の推定に有効な樹種。地理学評論, 63A-2:100-118.

ハイマツ・オオシラビソ・コメツガ・ダケカンバ・ミヤマナラ・ブナの分布を検討、いずれも夏期平均気温推定に有効でブナ・ミヤマナラの上下限、ダケカンバ・オオシラビソ・コメツガの下限の温度領域が適用可能であることを示した。

大西郁夫。1990。日本海西部沿岸地域の更新世中期以降の植生変化。第四紀研究, 29(3):223-234.

山陰地方中東部地域の植生変化を概観。

Ooi, N. & Minaki, M. & Noshiro S. 1990. Vegetation changes around the Last Glacial Maximum and effects of the Aira-Tn ash, at the Itai-Teragatani site, central Japan. Ecological Research, 5(1): 81-91.

最終氷期最盛期頃の植生変遷と始良Tn火山灰の影響を、兵庫県板井・寺ヶ谷遺跡から産出した花粉化石・大型植物化石の層位的変動と立木を含む4層準の木材化石の平面的な分布から議論する。

バリノ・サーヴェイ株式会社。蛭田遺跡のテフラ・珪藻・花粉分析。1990。「蛭田遺跡(自然科学分析編)(静岡市埋蔵文化財調査報告23)」II, 1-20, 図版II 1-3。中部電力株式会社・静岡市教育委員会。

静岡県南東部の有度丘陵にある遺跡で、縄文時代後期に形成された河道を中心にその前後の堆積物を分析。一貫してアカガシ亜属が卓越する照葉樹林が成立していたとした。

バリノ・サーヴェイ株式会社。草山遺跡出土の炭化種子・材・火山灰の同定。1990。「草山遺跡III(神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告18)」, 611-626, 図版61-69。神奈川県立埋蔵文化財センター。

神奈川県秦野市にある奈良・平安時代の集落遺跡。住居址から産出した炭化種子にはオニグルミ、クリ、コナラ属、タデ属、アカザ属、ウメ、モモ、サクラ属、2種類のマメ類、オオムギ、イネ、アワが含まれる。炭化材はアカガシ亜属が多く、ハインキ属の1種がこれに次ぐ。

バリノ・サーヴェイ株式会社。1990。春竹地区観測井設置工事他試料花粉分析報告。「熊本平野における完新世の古環境変化に関する研究(平成元年度特定研究成果報告書)代表者田村 実(熊本大学教育学部)」, 71-79.

熊本平野および菊池平野などの沖積層ならびに最終氷期の堆積物を5地点で検討した。このうち、4試料は鬼界アカホヤ火山灰との層位関係が明瞭である。また、1試料は始良Tn火山灰直下の試料を含んでいる。この試料は草本花粉の割合が高く、木本花粉ではコナラ亜属とクマシデ属-アサダ属が高率。

バリノ・サーヴェイ株式会社。1990。花粉分析。「郡家遺跡(神戸市東灘区所在御影中町地区第3次調査概報)」, 59-65。神戸市教育委員会。

弥生時代以降洪水砂によっておおわれた古墳時代の水田跡を含む堆積物の花粉分析を行った結果、シイ・カシ類からなる照葉樹林が復元され、上位に向けてマツ属・スギが増加する。

Sakaguchi, Y. & Katoh, S. 1990. The paleoclimate of northern Japan during the Lastglacial revealed by a pollen analytical study on the terrace deposits of southern Hokkaido. Bull. Dept. Geography Univ. Tokyo, No.22:1-16.

段丘堆積物中の泥炭・泥炭質堆積物の花粉分析にもとづいて最終間氷期から最終氷期最盛期までの古気候を論じ、約6-5万年前、1.8万年前の非常に寒冷な時期を認めた。前者は後者に比べより湿潤であるが、後者ほど寒冷ではないとする。

佐瀬 隆。1990。植物珪酸体分析。「広合遺跡(b・c・d区)・広合南遺跡発掘調査報告書(沼津市文化財調査報告書第49集)」, 193-195。沼津市教育委員会。

炉址状遺構の焼土とニセローム層(始良Tn火山灰と同層準)の植物珪酸体分析の結果、加熱に使用

した燃料はイネ科植物以外のものであり、焼土はニセローム層に由来する。

佐瀬 隆・近藤練三・井上克弘。1990。岩手県山麓における最近13,000年間の火山灰土壌の植生環境—火山灰層の植物珪酸体分析—。ペドロジスト, 34(1):15-30。

約13000年～10000年前はタケ亜科の優勢, 約8000年前まではタケ亜科と非タケ亜科との混在, 約2000年前までは非タケ亜科が優勢し, 以後それにタケ亜科とシバ属(約350年前以降)が加わる。また, 腐植の集積は約10000年前以降にはじまり, 植生の変化がそれに関連していることを指摘する。

島地 謙。1990。龍野城出土木簡の樹種。「龍野城, 神戸地方検察庁龍野支部庁舎建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(兵庫県文化財調査報告書第77冊)」, 31。兵庫県教育委員会。

近世の遺構と考えられる龍野城の堀内出土の木簡3点の樹種はヒノキと同定された。

島地 謙・林 昭三。1990。山垣遺跡出土木製品の樹種。「山垣遺跡—「里長」関連遺構の調査—発掘調査報告書(近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書(XIII))」(兵庫県文化財調査報告書第75冊), 57-64。兵庫県教育委員会。

奈良時代の建物址出土の木製品110点について樹種同定を行った。ヒノキとカシ類が圧倒的に多かった。

島地 謙・林 昭三。1990。上板井遺跡出土木器の樹種。「上板井遺跡発掘調査報告書」(兵庫県文化財調査報告書第76冊), 79-86。兵庫県教育委員会。

弥生～古墳時代初期の遺構から出土した木製品の樹種を同定した結果, スギ・ヒノキが多かった。

島地 謙・伊東隆夫。1990。昭和61年度調査の分析委託結果。「下川津遺跡—第2分冊—(瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告VII)」, 520-532。香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団。

出土した木製品69点の樹種同定。鋤・鍬類はカシ類やシ属・ケヤキ・ツバキに, 槌はカシ類とクヌギ類に, 櫛はイスノキとツゲに同定された。

杉田久志。1990。オオシラビソ林の分布と発達史—針葉樹林帯欠如の成因—。遺伝, Vol.44, No.3:49-52。

日本海側山地と太平洋側山地で構成樹種が異なる亜高山帯針葉樹林の分布状態を植生史を考慮に入れて考察。

鈴木敬治・真鍋健一・中馬教允。1990。猪苗代湖盆の起源と地史的変遷。地質学論集, No.36「湖沼の成因と環境・地質」:151-166。

花粉分析・大型植物化石分析の結果を利用して更新世末～完新世にかけての古環境を推定した。

鈴木敬治・相馬寛吉・野中俊夫。1990。会津盆地西縁地域における更新世塔寺層・七折坂層上部の層位的・古植物学的研究。福島大学理科報告, No.45:1-49。

鈴木三男・能城修一。1990。江袴遺跡出土木製品の樹種について。「江袴遺跡」, 51-59, 図版19-21。福井県三方町教育委員会。

弥生時代後期を中心とする木製品の樹種同定。角材・割材・板材や柄棒など木製品175点中, スギが165点を占める。

鈴木三男・能城修一。1990。国分境遺跡出土木製品類の樹種同定。「国分境遺跡」, 467-484。群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団。

古代の自然木40点, 加工木54点の樹種同定。

鈴木三男・能城修一。1990。朝倉氏遺跡から出土した木製品の樹種。「朝倉氏遺跡資料館紀要1990」, 15-22。福井県立朝倉氏遺跡資料館。

朝倉氏遺跡から出土した木製品388点の樹種同定。1989年度に調査した漆器類を中心とする木製品の樹種同定一覧。継続的に調査をすすめているため集計はしていない。

鈴木三男・能城修一。1990。木製品の樹種。「白鷺」, 208-225。東京都立学校遺跡調査会。

江戸時代の木製品および炭化材168点の樹種同定。下駄69点中ではマツ属複雑管束亜属とクリ・スギが61点を占め, 漆器67点中ではトチノキとブナが60点を占める。

Takada, M., Sasaki, M., Yanagimachi, O. & Ohmori, H. 1990. Environmental change during the Late Holocene and the climatic implications of snow accumulation hollows in and around Mt. Tango, the Echigo Range, central Japan. Bull. Dept. Geography Univ. Tokyo, No.22: 35-53.

地形特性・土壌層位・花粉化石群にもとづいて雪窪の形成・発達と気候環境との関連および完新世後半の環境変化を論じた。

高原 光・竹岡政治. 1990. 福井県三方郡三方町黒田のスギ埋没林. 京都府立大学農学部演習林報告, No.34:75-81.

約3000年前には黒田の盆地内にはスギの優勢な森林が広がっていたが、その立地は地下水が高く過湿な泥炭地だったとする。

外山秀一. 1990. プラント・オパール分析からみた歴史時代の土地条件—香川・林町遺跡(仮称)、山梨・宮ノ前遺跡、滋賀・光相寺遺跡・吉地薬師堂遺跡を例に—。糸里制研究, No.6:111-128.

埋没微地形の分布や地層の堆積状況、およびプラント・オパール定量分析による検出量の違いから地形環境の異なる各遺跡の歴史時代の土地条件を比較検討し、プラント・オパール分析法の有効性を説く。

外山秀一. 1990. 吉地薬師堂遺跡におけるプラント・オパール分析。「平成元年度中主町内遺跡分布調査(Ⅱ)概要報告書(中主町文化財調査報告書第25集)」, 33-44. 中主町教育委員会。

プラント・オパール分析の結果と地層の堆積状況を踏まえ、おおよそ古墳時代以降の土地条件の変化と3期(飛鳥時代およびそれ以前、奈良時代後半、平安時代末～鎌倉時代)の砂層の堆積時期を推定する。

外山秀一. 1990. 古屋敷遺跡における花粉分析ならびにプラント・オパール分析。「古屋敷遺跡発掘調査報告書(富士吉田市史資料叢書8)」, 149-161. 富士吉田市史編さん室・古屋敷遺跡調査団。

富士黒土層を対象として花粉分析とプラント・オパール分析を実施。腐植質火山灰中の花粉化石の数と種類は限られる反面、プラント・オパールはウシクサ類やタケ類に代表されることを示す。また、富士黒土層の腐植の原因についても考察する。

外山秀一. 1990. 溝状遺構内堆積物のプラント・オパール分析。「史跡池上曾根遺跡発掘調査概要」, 83-94, 図版1. 大阪府教育委員会。

集落をめぐる溝状遺構(環濠)が廃棄される過程において、一部ではゴミ捨て場となり、人為的にイネ科植物が搬入されたことを推定する。

外山秀一. 1990. 桜井畑遺跡の立地と土地条件の変化。「桜井畑遺跡A・C地区—甲府勤労者総合福祉センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—(山梨県埋蔵文化財センター調査報告第54集)」, 41-47. 山梨県教育委員会・山梨県商工労働部。

事前調査においてプラント・オパール分析を実施し、比較的高燥な土地条件においてはヨシ属の一時的な増加を認めた。その後の発掘調査の結果、方形低墳墓の周溝にあたることが判明し、微高地縁辺部における墓域の存在を明らかにした。

外山秀一. 1990. 身洗沢遺跡におけるプラント・オパール分析。「身洗沢遺跡・一町五反遺跡—県道石橋・石和線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—(山梨県埋蔵文化財センター調査報告第55集)」, 70-77. 山梨県教育委員会。

微凹地内の3地点でプラント・オパール分析を行い、弥生時代後期の水田址を発掘。扇状地扇端部における水稲農耕開始期と当時の土地利用の状況を検討する。

外山秀一・中山誠二. 1990. 中部日本における稲作農耕の起源とその波及(序論)—プラント・オパール土器胎土分析法による試み—。帝京大学山梨文化財研究所研究報告, 3:1-43.

稲作農耕を構成する諸要素を細分、イネ資料と水田址からみた日本の稲と稲作技術の波及の状況を整理し、中部日本の稲作の開始と波及についてプラント・オパール土器胎土分析法を用いた新たな試みを提示する。

- 辻 誠一郎(編). 1990. 最終間氷期以降の植生史文献:日本列島. 「先史モンゴロイド集団の拡散地域の古環境データベース-文献情報資料集(2)」, 327pp.
- 辻 誠一郎. 1990. 伊木力遺跡の花粉化石群集. 「伊木力遺跡」(同志社大学考古学研究室編), 631-641, 図版110-117. 多良見町教育委員会.
 縄文前期以降の花粉化石群を記載し, 大村湾南岸域の植生史を論じる. 縄文前期ではカシ類優占の照葉樹林が自然度の高い状態で成立していたとする.
- 辻 誠一郎. 1990. 伊木力遺跡と周辺古環境変遷史. 「伊木力遺跡」(同志社大学考古学研究室編), 670-673. 多良見町教育委員会.
 縄文海進期以降の大村湾南岸域の古地理と古植生の変遷をまとめ, 入江の時期:縄文海進期, 干潟の時期, 水田の時期に時期区分する.
- 辻 誠一郎・宮地直道・鈴木正章・小倉順子・南木睦彦・能城修一・鈴木三男・杉山真二・小杉正人・藤原宏志. 1990. 弥生時代から平安時代の古地理と古環境. 「お伊勢山遺跡の調査:第4部弥生時代から平安時代」, 3-75. 早稲田大学.
 古墳時代から平安時代の地質層序・編年, 花粉化石群, 大型植物化石群, 木材化石群, 珪藻化石群, 植物珪酸体化石群を記載し, 古代における稲作農耕ほかの人間の活動と植生の関わりを論じる.
- Tsuji, S., Suzuki, M. & Noshiro, S. 1990. Palaeobotany of Holocene buried forests on the riverbed of the Iwaki River, Tsugaru, Northern Japan. *J. Phytogeogr. & Taxon.*, 38:107-118.
 津軽平野の岩木川河床に見いだされた約2500年前の埋没林の樹種構成と分布を明らかにし, その生成環境について論じる.
- 内山 隆. 1990. 中間温帯林域における花粉分析学的研究 その2 東北地方北東部. *日本花粉学会誌*, 36(1):17-32.
 仙台平野北部と冷温帯域の山地でのヒラー型ハンドボーラーにより採取された堆積物の花粉分析をもとに, 過去5000年間の植生変化を議論する.
- 植田弥生・辻 誠一郎. 1990. 福井県三方町牛屋遺跡から出土した弥生時代以降の木材遺体群. *植物地理・分類研究*, 38:43-50.
 低地下に埋没した自然の木材化石群および遺構をつくる加工木群の産状と樹種を記載し, 化石群の形成過程と周辺植生を論じる.
- 渡邊真紀子. 1990. 火山灰土壌の腐植層の生成と環境変化. 「土壌地理学その基本概念と応用」(浅海重夫編), 236-246. 古今書院, 東京.
 腐植層の断面分布と腐植特性の空間分布が時空間的環境変化研究に有効であることを概説.
- 渡邊真紀子. 1990. 黒ボク土の生成と農耕文化-とくに放牧との関わりについて-. *お茶の水地理*, No.31:16-23.
 黒ボク土の生成と先史時代・古代の農耕文化のむすびつき, とくに放牧との関連性を探り, 恒常的な湿潤気候下で長い間草原が維持されてきた要因について, 歴史的・考古学的資料を用いて再考.
- 渡辺 誠. 1990. 自然遺物. 「桶・荒田町遺跡III」, 67-72. 神戸市教育委員会.
 縄文時代後期後葉, 宮滝式期の貯蔵穴(SK09)出土の植物遺体はイチイガシ・コナラ属・トチノキに同定された.
- 山田昌久・鈴木三男・能城修一. 1990. 考古学における木製遺物の樹種選択研究の現状-木製品と樹種・森林資源の選択・使用樹種と工具(制作法)-. 「木と民具(日本民具学会論集4)」(日本民具学会編), 121-135. 雄山閣, 東京.
 これまでに報告された木製品の樹種選択研究のうち代表的なものを取り上げて, 縄文時代から古代にかけての樹種選択の変遷を容器や農具・斧・丸木舟を中心に概観.
- 山口慶一・千野裕道. 1990. マツ林の形成および窯業へのマツ材の導入について. *東京都埋蔵文化財センター研究論集*, No.8:85-124.
 古代から中世にかけての窯業に利用された燃料材の樹種を調査した結果, 二葉松類が選択的に利用

されたという傾向はほとんど見いだせず、窯業生産による森林への影響は極端なものではなかったことを示唆する。

矢野牧夫・星野フサ. 1990. 石狩低地帯における最終氷期の気候変化. 北海道開拓記念館研究年報, No.18:57-70.

石狩低地帯の大型植物化石・花粉化石から最終氷期を前・中・後期に分けて気候変化を議論する.

米林 伸. 1990. 花粉分析による植生の空間分布の復元. 植生史研究, 5:19-26.

花粉群集から植生復元を行う場合の指針を提示した.

吉崎昌一. 1990. 中島松5遺跡B地点から出土した植物遺体. 「恵庭市中島松5遺跡B地点・中島松7遺跡C地点発掘調査報告書」, 41-45, 65.

標紋時代の炭化雑穀の報告.

吉崎昌一. 1990. 北海道恵庭市柏木川11遺跡の植物遺体. 「柏木川11遺跡(北海道恵庭市発掘調査報告書)」, 104-113. 恵庭市教育委員会.

標紋時代の炭化したアワ, キビなどの産出を報告.

吉崎昌一・椿坂恭代. 1990. サクシュコトニ遺跡にみられる食料獲得戦略. 「北大構内の遺跡(8)(昭和64年度)」, 23-36. 北海道大学, 札幌.

北大構内サクシュコトニ遺跡の標紋時代の炭化した栽培種実を総説し, この時代の北海道内陸部での初期的農耕について論じている. 多産するのはキビ, アワ, ついでオオムギとコムギ, さらにコム, アサ, アズキと思われるもの, シソ属, ウリ科, アブラナ属がある.

植生史研究関連文献リスト補遺

内山 隆. 1986. 日本産コナラ属およびブナ属(ブナ科)の花粉形態について. 日本花粉学会会誌, 32(2):81-87.

コナラ属に含まれる落葉の5種(コナラ・ミズナラ・アベマキ・カシワ・クヌギ)とブナ属のブナ・イヌブナの花粉の粒径の測定.

武市伸幸. 1988. スギの年輪幅の変動より推定した高知県魚梁瀬の気温変化. 東北地理, 40:181-189.

年輪データを規準化して得られた年輪インデックスと気候要素の相関を調べ, 11月の最高気温について, 年輪幅からの推定値と実測値との間に有意な相関があることを示した.

岩内明子・長谷義隆. 1989. 熊本県上益城郡益城町津森層の花粉分析. 熊本大学教養部紀要 自然科学編, No.24: 103-110.

ヒシ属などの産出で知られている更新統津森層下部の花粉分析結果は, トウヒ属とスギ科を主とする針葉樹林にブナ属・ケヤキ属などの落葉広葉樹が伴う植生を示す.

Fuji, N. 1989. Palaeovegetation during the Jomonian Period around the Mawaki archaeological site, Noto Peninsula, central Japan. Bullutin of the Faculty of Education, Kanazawa University, Natural Sciences, No.38:41-57.

真脇遺跡周辺の旧石器時代中期から縄文時代晩期の花粉化石に基づく古植生の変遷をまとめる.

能登 健・内田憲治・石井克己・杉山真二. 1989. 古墳時代の陸苗代-群馬県子持村黒井峯・西組遺跡の発掘調査から-。「農耕の技術12」, 21-47.

考古学的に想定された陸苗代をプラント・オパール分析により追証する. 現生のイネの成長にともなう機動細胞珪酸体の形態変化を調べ, 陸苗代と想定された「小区画の畠」から検出された機動細胞プラント・オパールと比較し, 苗の段階の可能性が高いとした.

渡邊眞紀子. 1989. 火山灰土壌の腐植特性の空間分布の推移にみる環境変化-赤城火山南麓における事例-. 地学雑誌, 97(7):22-34.

腐植の集積度と腐植化度の空間分布から, 腐植特性が垂直高度の変化と対応した変化を持つことを

確かめ、土壌腐植特性の垂直成帯性の移動を調べることによって古環境解明に応用できることを示した。

事務局報告

○会員移動

□新入会員 1992年4月1日～1992年12月10日（新名簿にのっています）

内村 悦三	大阪市立大学理学部附属植物園
小山 弘道	大阪市立大学理学部附属植物園
刈谷 愛彦	東京都立大学理学部地理学教室大学院
石瀬 寛孝	バリノ・サーヴェイ株式会社
宮本 真二	立命館大学地理学科
船越 眞樹	信州大学理学部生物学教室
半田 久美子	大阪市立大学理学部生物学科植物分類学研究室
中村 亮仁	奈良大学文学部
小倉 博之	大阪市立大学理学部地学科第2ユニット
千藤 克彦	（財）岐阜県文化財保護センター
森脇 賢	筑波大学第一学群人文学類
長谷川 香織	大島造園土木（株）
岡田 俊子	奈良女子大学大学院文学研究科
千種 浩	神戸市教育委員会文化財課
楯 真美子	（財）愛知県埋蔵文化財センター
福田 美和	東海大学海洋学部海洋科学科
眞野 修	

□新入会員 1992年12月11日～1993年3月29日 新名簿発行以降に入会

田村 浩喜 Tamura Hiroki	信州大学大学院農学研究科 〒399-45 長野県上伊那郡南箕輪村8304 〒399-45 長野県上伊那郡南箕輪村8304 中原寮	Tel 0265-78-4422(内362) Tel 0265-78-4422
菅原 弘樹 Sugawara Hiroki	宮城県教育庁文化財保護課 〒980 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8-1 〒981-01 宮城県仙台市泉区加茂2丁目82-2-4-103	Tel 022-211-3684 Tel 022-377-2983
仲 隆裕 Naka Takahiro	千葉大学園芸学部緑地・環境学科 〒271 千葉県松戸市松戸648 〒271 千葉県松戸市松戸648 千葉大学松戸宿舎1-401	Tel 0473-63-1221(内415) Tel 0473-64-0994

□姓・自宅住所変更

（旧姓 津田） 宮橋 美弥子 Miyahashi Miyako	市川市立市川自然博物館 〒272 千葉県市川市大町284 〒271 千葉県松戸市紙敷1549 A-203	Tel 0473-39-0477 Tel 0473-92-5775
---------------------------------------	--	--------------------------------------

□自宅住所変更

寺田 和雄 Terada Kazuo	〒920 石川県金沢市旭町1丁目10-26 コーポラス押田205号	Tel 0762-60-7569
-----------------------	--------------------------------------	------------------

□所属変更

隅田 まり Sumita Mari	(c/o)Prof. H.-U. Schmincke GEOMAR Wischhofstrasse 1-3, D-2300 Kiel 14 F.R.Germany
----------------------	---